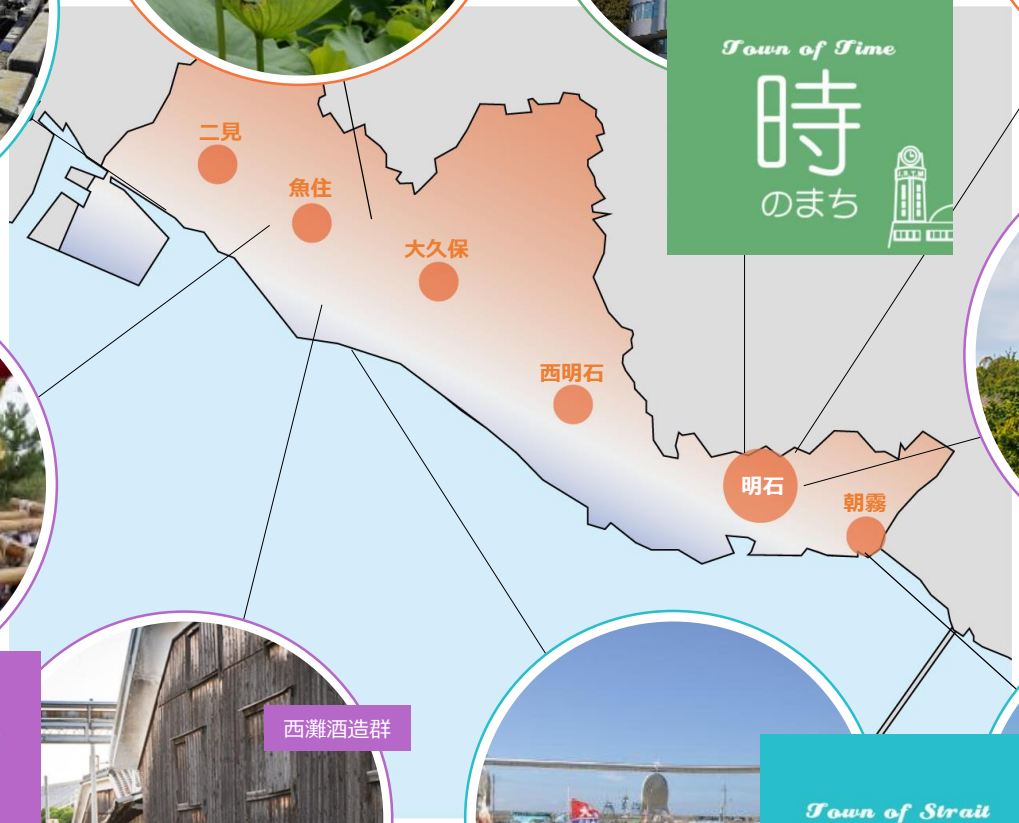
資料２

明石市役所新庁舎　設計コンセプト

明石市新庁舎コンセプト

■明石市の特徴



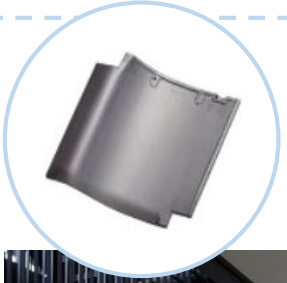
Town of Time
時
のまち

Historical Town
歴史
のまち

Town of Strait
海峡
のまち

明石市新庁舎コンセプト

■「地域の特性」を活かした他市庁舎の例



南あわじ市庁舎（兵庫県）

地元産業である淡路瓦を日よけスクリーン（外装材）や内装のアクセント材として使用。

内装材として壁に使用　　日よけスクリーン

土庄町庁舎（香川県小豆島）

町の風物詩である「そうめんの天日干し」の景色を外観デザインとして使用。

日よけスクリーンとしてそうめんの天日干しのイメージを採用

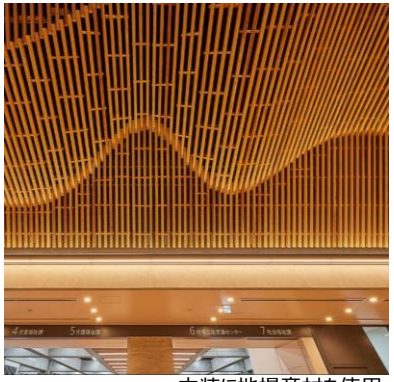
甲賀市庁舎（滋賀県）

「忍びの里」として忍者の町で知られる歴史性を活かし、アートやサイン、内装に使用。

吹抜けに忍者のアート　　巻物に見せたサイン　シュリケンなどの床デザイン

五條市庁舎（奈良県）

地場産材である木材を市民開放エリアの床や天井、家具などに使用。



内装に地場産材を使用

明石市新庁舎コンセプト

■全体コンセプト

「まちと海をつなげる庁舎」

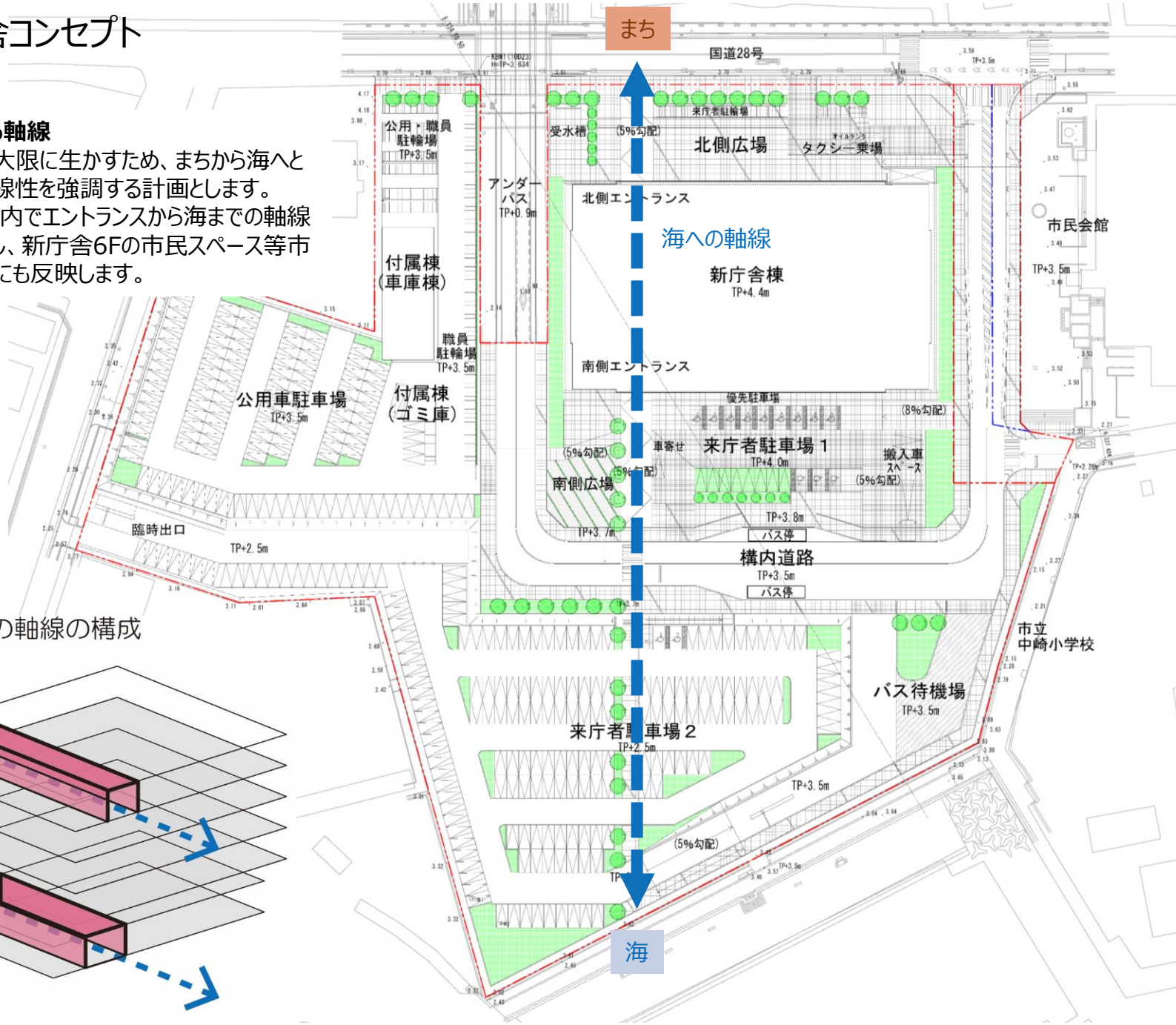
【広域での新庁舎の位置】

東西に15.6km の海岸線や、大蔵海岸、林崎・松江海岸などの海浜公園を有し、また、雄大な明石海峡を望むことが出来る「海峡のまち」としての明石市。
そして、日本標準時となる東経135 度子午線が通り、市内には子午線を示す標識や様々な日時計などが見られる、「時のまち」としての明石市。
明石海峡の景観を作りだす波や明石海峡大橋の形状、時間・経度などの概念をデザインのヒントとして建物全体に取り入れます。

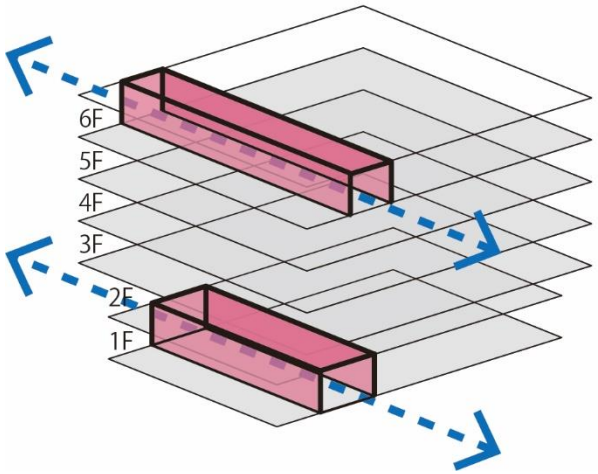
明石市新庁舎コンセプト

■明石らしさの表現

①まちと海を繋げる軸線
海に近い立地を最大限に生かすため、まちから海へと続く南北方向の軸線性を強調する計画とします。
外構計画では敷地内でエントランスから海までの軸線を感じられる設えとし、新庁舎6Fの市民スペース等市民が利用する空間にも反映します。



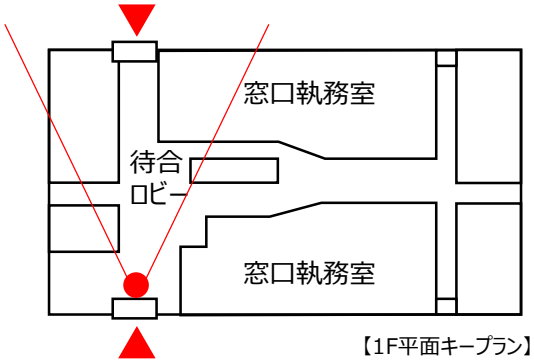
■建物内の軸線の構成



明石市新庁舎コンセプト

■明石らしさの表現

①まちと海を繋げる軸線
1Fエントランス空間は海への軸線がつながる空間として、外構の車寄せ等の上屋と連続したデザインとすることで、「海への軸線」を強調する計画とします。



【1F平面キープラン】

【外構の車寄せの上屋までデザインが連続するイメージ】

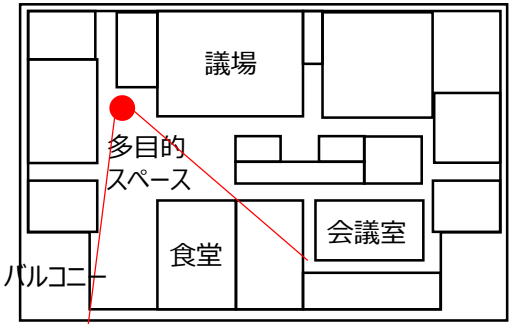
【メインエントランスを南側から見たイメージ】

明石市新庁舎コンセプト

■明石らしさの表現

①まちと海を繋げる軸線

6Fの多目的スペースは南に明石海峡の雄大な風景を望め、北に天文科学館やパピオスなどの市街地を望むことができます。視覚的に「明石らしい」風景・街並みを楽しむことができ、行政手続きだけではない市民や観光客の方々の居場所となる空間を準備します。



【6F平面キープラン】

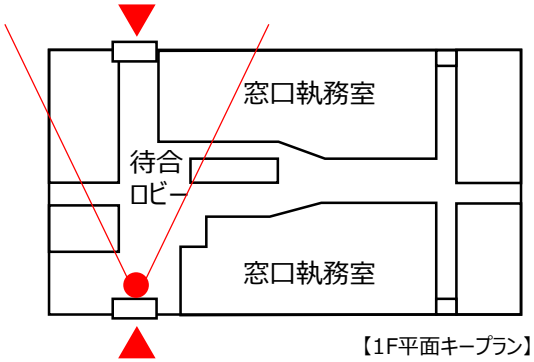
【多目的スペースを北側から見たイメージ】

明石市新庁舎コンセプト

■明石らしさの表現

1F内観イメージの検討（案１）

・1Fエントランス空間は海への軸線を「明石海峡の穏やかな海や風」を軽やかな天井で表現します。
・壁面には明石城の城壁をイメージし、「積層された石」をタイル等により表現します。
・床には落ち着きのある木調の床材を使用することで、訪れた市民が入りやすい空間とします。



【1F平面キープラン】

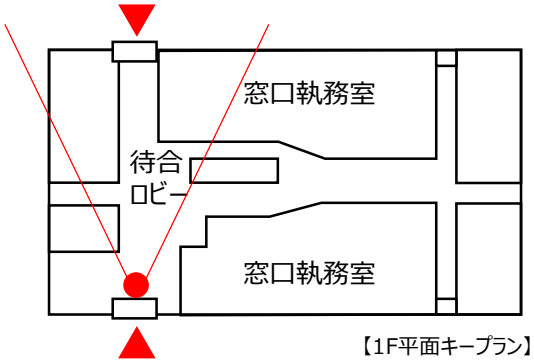
【メインエントランスを南側から見たイメージ】

明石市新庁舎コンセプト

■明石らしさの表現

1F内観イメージの検討（案2）

・1Fエントランス空間は木調の材料で包まれた温かみのある空間とし、
　海への軸線を連続した木天井で強調します。
・壁面には明石城の白漆喰の壁をイメージし、漆喰調の壁をアクセントで取り入れます。



【1F平面キープラン】

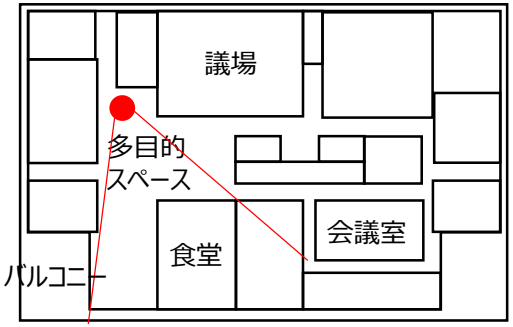
【メインエントランスを南側から見たイメージ】

明石市新庁舎コンセプト

■明石らしさの表現

6F内観イメージの検討

・6Fの多目的スペースは、「市民活動の賑わい」を動きを感じる天井により表現します。
・床材は市民に親しみを持って利用できるように木調の材料を採用します。



【6F平面キープラン】

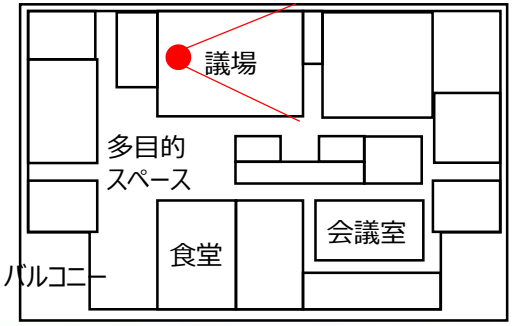
【多目的スペースを北側から見たイメージ】

明石市新庁舎コンセプト

■明石らしさの表現

議場内観イメージの検討

・6Fの議場は、「議会の活発な討論」を躍動感のある天井形状によって表現します。
・家具や壁には木を多く使用し、木のぬくもりや香りを感じる空間とします。



【6F平面キープラン】

【議場を傍聴席から見たイメージ】

明石市新庁舎コンセプト

■明石らしさの表現

②明石海峡の風景と呼応する軽やかな白い屋根

瀬戸内の穏やかな風景を創る明石海峡。古くから畿内の入り口として、多くの船が行きかう風景は現在も変わらず、穏やかな水面に船の白い波が残る景色は明石らしい風景と言えます。
そうした風景に溶け込み・呼応するように白いラインを強調するような屋根で表現します。白いラインは海からの風にたなびくヨットの帆のように、動きを感じる軽やかな印象とし、全体として未来へ進んでいく船のようなイメージとします。

【明石海峡から見た新庁舎のイメージ】

明石市新庁舎コンセプト

■明石らしさの表現

②明石海峡の風景と呼応する軽やかな白い屋根

【ベランダ護岸から見た新庁舎のイメージ】

明石市新庁舎コンセプト

■明石らしさの表現

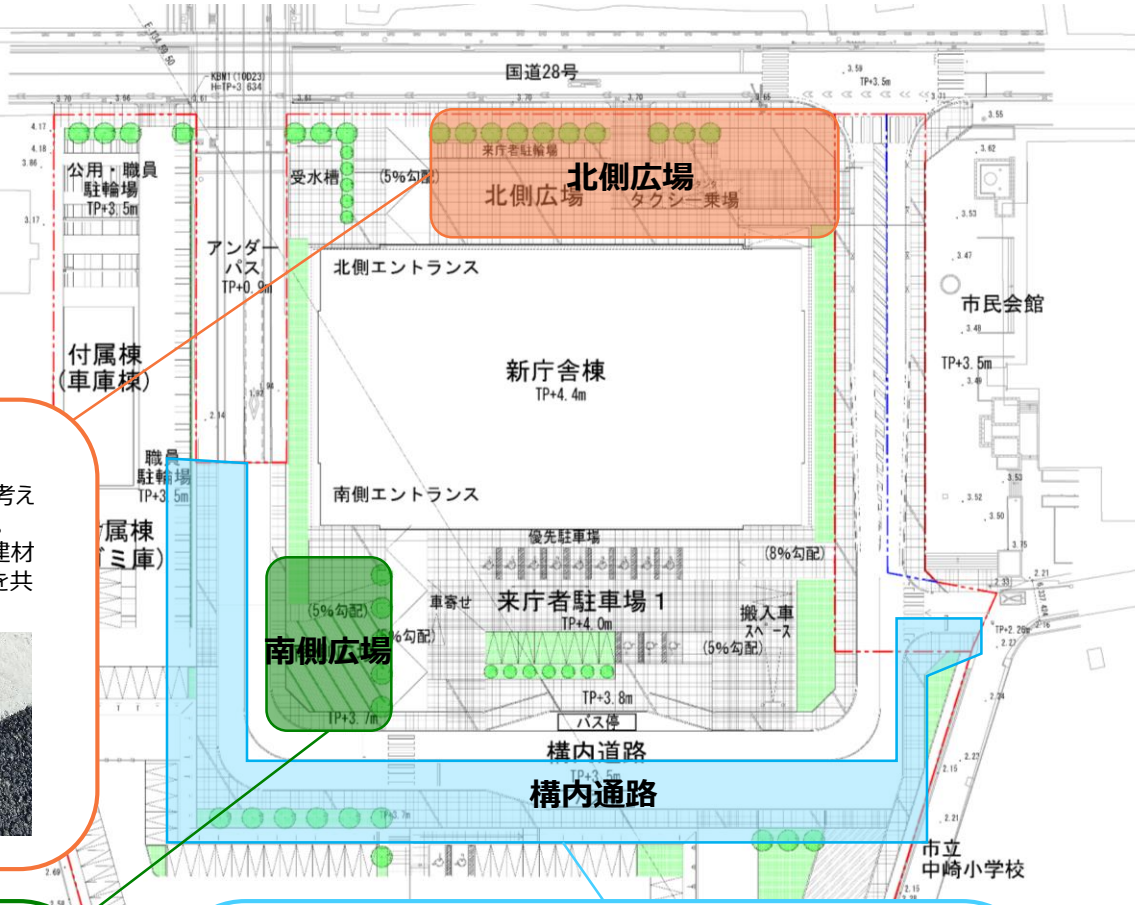
②明石海峡の風景と呼応する軽やかな白い屋根

【国道28号線から見た新庁舎のイメージ】

明石市新庁舎コンセプト

■明石らしさの表現

③時のまちを感じさせる「時のまち明石　×　〇〇」
標準時子午線である東経135度の経線が走る「時のまち明石」。
まちのシンボルにもなっている経線を敷地全体のデザインモチーフとし、敷地内の随所にテーマを設定することで、経線を様々な形で表現します。



A:北側広場「時のまち　×　市民の愛着」

北側広場は自転車の乗り入れや北側からの多方向からのアプローチが考えられるため、維持管理がしやすいインターロッキング舗装をベースとします。
その中に経線に沿う形で、市民参加型のワークショップ等で製作できる建材を用いることで、市民の思い出、愛着に繋がり、共に作り上げる「時間」を共有できる空間を検討します。

B:南側広場「時のまち　×　市民の憩い」

南側広場は市民を迎え入れるポケットパークとして、憩いを感じられる植栽を施します。経線をイメージしたピッチの細かいライン上に芝等の植栽を施し、ファーニチャーと共に市民が憩える空間を検討します。

C:敷地内通路「時のまち　×　こどもたちの学習」

敷地内の通路は中崎小学校の登下校のルートにもなることから簡易な日時計の設置や経線ラインに経度を刻印するなど、日ごろから「時のまち」に触れられる空間を検討します。